

登壇者プロフィール

開会挨拶



間野 博行

国立がん研究センター 研究所長 / C-CAT 長
1984年東京大学医学部卒。1989年米国セントジュード小児研究病院生化学部門留学の後、1991年東京大学医学部第三内科助手、1993年自治医科大学分子生物学講座講師、2001年同大学ゲノム機能研究部教授となりEML4-ALK肺がん原因遺伝子を発見。2013年東京大学大学院医学系研究科細胞情報学分野教授を経て、2016年より現職。がん遺伝子研究、ゲノム医学が専門。

J-SUPPORT 承認試験の成果概要



内富 庸介

国立がん研究センターがん対策研究所 / 国立がん研究センター中央病院 支持療法開発部門長 / J-SUPPORT 代表

1984年広島大学医学部卒。88年国立呉病院・中国地方がんセンター精神科医師としてがん患者の精神的ケアに携わり、91年米国スロンケタリングがんセンター記念病院で精神的ケアについて研修。95年国立がんセンター精神腫瘍学研究部の創設に携わる。2010年4月より岡山大学精神医学教授、2015年1月より現職。

専門は、がんの診断後に生じる落込みや不安のケア研究開発。日本サイコoncology学会副代表理事。

セッション①：研究成果報告

「乳がんサバイバーの再発恐怖に対するスマートフォン精神療法 - 無作為割付比較試験 (J-SUPPORT1703)」

〈研究概要〉

患者さんがスマホでアクセスできる心理療法アプリについて私たちは研究開発を行ってきました。乳がん患者さんの再発に対する恐怖感や心のつらさを減らす試みです。世界でもアプリで心理的苦痛の軽減に成功した例はなく、アプリ開発には計画段階から患者さんが参画したことも大きな特徴です。このアプリによって、将来的には時間や場所を選ばず日常生活の中でつらさを和らげることができるようになる可能性があります。



明智 龍男

名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野 教授 / J-SUPPORT

精神科専門医。専門は精神腫瘍学、コンサルテーション・リエゾン精神医学、心理社会的介入。1991年広島大学医学部卒業。広島市民病院、国立がんセンターなどをへて2011年から名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野教授。名古屋市立大学病院こころの医療センターセンター長、緩和ケアセンター長兼任。日本サイコoncology学会第二副代表理事。

Psychiatry and Clinical Neuroscience Reports (Vice editor in chief), Japanese Journal of Clinical Oncology (Associate Editor, Editorial board member)



前田 留里

NPO法人京都ワーキング・サバイバー

38才で乳がん罹患。周囲に情報がなく仕事と治療の両立に苦慮した経験から2015年に京都で働く世代のがん患者支援の会を立ち上げる。現在働きながら立命館大学大学院 人間科学研究科で対人援助学を学び、昨年公認心理師資格を取得。医療法人同仁会(社団)同仁会本部 業務推進室課長、一般社団法人全国がん患者団体連合会理事。



岩田 広治

愛知県がんセンター副院長兼乳腺科部長

1987年名古屋市立大学医学部卒業、名古屋市立大学乳腺内分泌グループ(乳癌の研究・診療)に所属。1996年愛知県がんセンター乳腺外科医長、2003年同部長に就任。2012年愛知県がんセンター副院長。世界の新薬開発治験に多数参加し、2018年乳癌診療ガイドライン作成を主導。2020年日本乳癌学会学術総会をWEB開催、2024年日本臨床腫瘍学会学術集会を開催予定。JCOG乳がんグループ代表として多くの臨床試験を立案・運営。



轟 浩美

認定特定非営利活動法人 希望の会

スキルス胃がんで配偶者を亡くした遺族の立場。2014年まで学習院幼稚園教諭。2015年希望の会発足、2016年より理事長となる。『知ることには力になる』をモットーに、胃がんのみならず、社会へのがん啓発にも積極的に取り組んでいる。全国がん患者団体連合会理事、厚生労働省がん対策推進協議会元構成員、人生会議国民向け普及啓発事業検討会委員、患者向け胃癌治療ガイドライン作成委員。



桜井 なおみ

一般社団法人 CSRプロジェクト

大学で都市計画を学んだ後、卒業後はコンサルティング会社にてまちづくりや環境教育、費用対効果などの業務に従事。2004年、乳がん罹患後は、働き盛りで罹患した自らのがん経験や社会経験を活かし、小児がんを含めた患者・家族の支援活動を開始、現在に至る。一般社団法人CSRプロジェクト代表理事、キャンサーソリューションズ(株)代表取締役社長、NPO法人HOPEプロジェクト理事長として活動。技術士(建設部門)、社会福祉士、精神保健福祉士、産業カウンセラー。

セッション②：全がん連サバイバーシップニーズ調査報告「私たちが考える“がんサバイバーシップ”」

〈概要〉

がん患者やその家族、関係者が、「生きていることで何を大切にしているか」、「生きぬく中でどんなことを重要だと考えているか」を問うため、私たち全国がん患者団体連合会サバイバーシップ委員会により「私たちが考える“がんサバイバーシップ”アンケート」を実施したところ、642名の方から回答を頂きました。統計の専門家にご協力いただいたアンケートの解析結果から、がんサバイバーが抱える悩み・不安・困難が何か、性別・年齢・立場などによる違いを統計的にまとめることができましたのでご紹介させていただきます。



川相 一郎

特定非営利活動法人 がんと共に生きる会 副理事長
2003年より、がん患者家族の立場で患者支援活動をはじめ、2009年より特定非営利活動法人がんと共に生きる会に所属。2010年にはNPO法人大阪がんえなナビ制作委員会を設立し、すべてのがん医療に関する広報及び普及啓発活動および患者・家族・遺族への支援活動を行っている。

セッション③：パネルディスカッション「患者・市民とともにあゆむ支持・緩和・心のケア開発」



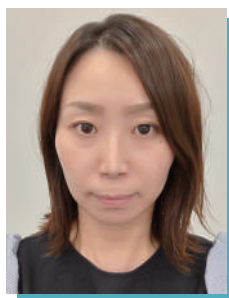
全田 貞幹

国立がん研究センター東病院 放射線治療科、支持・緩和研究開発支援室 / J-SUPPORT
2000年防衛医科大学校卒、2014年東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科修了、医学博士。2006年から国立がん研究センター東病院放射線治療科勤務。2020年より支持・緩和研究開発支援室室長を兼務。2015年より国立がん研究センター中央病院支持療法開発部門を兼務し、2019年より支持療法・緩和治療グループのチーフディレクターを務める。専門は放射線治療、頭頸部がん、支持療法。



藤森 麻衣子

国立がん研究センターがん対策研究所 支持・サバイバーシップTR研究部 / J-SUPPORT
公認心理師／臨床心理士。専門は、精神腫瘍学、臨床心理学、行動科学。2004年早稲田大学大学院人間科学研究科満期退学。その後2010年まで、博士研究員として、国立がん研究センター、シカゴ大学、米国スロンケタリングがんセンター記念病院、理化学研究所。2011年臨床心理士として国立がん研究センター中央病院。2013年から国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺総合対策センター適応障害研究室長。2017年国立がん研究センター 社会と健康研究センター健康支援研究部室長。2021年より現職。日本サイコオンコロジー学会理事。



池野 薫

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) ゲノム・データ基盤事業部 医療技術研究開発課 (兼) 疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
2002年国際医療福祉大学保健医療学部放射線・情報科学科卒業。2021年3月まで診療放射線技師として国立がん研究センター東病院放射線技術部放射線診断技術室にて勤務、同年4月よりAMED勤務。革新的がん医療実用化研究事業において、支持・緩和医療、高齢者のがん、難治性のがんに関する研究支援業務に従事している。



馬上 祐子

一般社団法人 日本希少がん患者会ネットワーク 小児脳腫瘍の会
1998年長女がグレードIV小脳中部髄芽腫を治療した経験から、2002年より小児脳腫瘍の会に参加。現代表。以来希少がんである小児がんの治療開発推進、合併症を抱える中の生活の質の向上を目指し、多くの団体と連携して活動している。2015年希少がん医療・支援のあり方に関する検討会構成員、第5期がん対策推進協議会委員を経て、2017年より(一社)日本希少がん患者会ネットワーク理事。2021年より小児がん患者会ネットワーク運営委員、2022年より一般社団法人全国がん患者団体連合会理事、小児がん対策国民会議運営委員。

閉会挨拶



島田 和明

国立がん研究センター中央病院長
1982年京都府立医科大学卒業後、東京大学医学部第2外科に入局。1990年から国立がん研究センター中央病院肝胆脾外科医として従事、1000例以上の肝胆脾外科手術を行う。2020年4月から同病院長に就任。AMED革新的がん医療実用化研究事業にて、肝胆脾外科領域の研究開発「根治が見込めるがんに対する外科侵襲の軽減とQOL改善を目指した標準治療法確立のための多施設共同第三相試験」の研究を実施。

総合同会



松本 陽子

NPO法人 愛媛がんサポート おれんじの会
高校3年生のときに父親をがんで亡くし、その後33歳のときに自身が子宮頸がんに罹患。2008年、愛媛でがん患者と家族の会を設立し翌年にNPO法人化。愛媛県からの委託を受けて、仲間と共にピアサポート事業などに取り組んでいる。一般社団法人全国がん患者団体連合会理事、緩和ケア委員会委員長。

開催日時：2022年11月13日(日) 13:30～16:15
申込先：<https://ws.formzu.net/dist/S97928974/>
※お申込み締切：2022年11月4日(金) 正午12:00まで



【主催】J-SUPPORT 日本がん支持療法研究グループ
【共催】一般社団法人 全国がん患者団体連合会
【運営支援】キャンサー・ソリューションズ株式会社

本報告会は、全国がん患者団体連合会(全がん連)が運営をお手伝いしています。全がん連には53団体が加盟していて、政策提言や「がん患者学会」の開催、がん教育委員会、緩和ケア委員会、サバイバーシップ委員会、政策提言委員会、ピアサポート委員会、PPI委員会がありそれぞれの委員会活動などを行っています。